



福井大学教育学部
附属義務教育学校

No.4
令和8年2月13日

学校だより

令和7年度社会創生プロジェクトの取組

後期課程 副校長 柳 博恵

本校の社会創生プロジェクト（以下：社創）とは、総合的な学習の時間や生活科と国語科をはじめ、他の教科等と関連させた本校独自の学習であり、仲間と共に協働で課題に向き合う探究学習です。

未来を担う子どもたちにつけたい力「生きる力」を身につける上で求められるのは、「自ら課題を見つけ、仲間と協働し、よりよい解決方法を探り、課題を解明していこうと主体的に学び続ける子どもを育てること」です。そんな力をもった子供たちを育てるため、本校では、目指す子ども像を「自立・協働・貢献」という言葉で表し、学校教育全体でこの力の醸成に取り組んでいます。本号では、ここまで子供たちが取り組んできている活動についてご紹介します。

【1年生】『 みんなで きらきら わくわく ランド 』

いろいろな園から入学してきた子供たちが、外遊びの中で虫を捕まえたり、石を並べて家のようなものをつくったりしながら、友達と関わり合い、興味や関心の世界を広げてきました。そうした姿を大切にしながら、社創では、生き物や野菜・花を育てたり、家をつくったりする活動を進め、子供たちの「好き」が集まる「わくわくランド」を形にしてきました。「好き」をきっかけに自然と協力が生まれ、「ねじが固いなら、ぼくが回してあげるね」「わたしがこっちを持つからそっちはお願いね」と声を掛け合う姿も見られました。「生き物を飼いたい」という願いから始まった池づくりでは、水が抜ける失敗を重ねながらも話し合い、自分たちの気付きや調べたことを活かして改善し、ついに池を完成させました。うまくいかないことに会っても、考え続け、工夫し、仲間と助け合う姿に、子供たちの大きな成長を感じています。現在は幼稚園の年長さんとの交流も始まり、この「わくわくランド」が、これからどのように発展していくのか楽しみです。



【2年生】『 そだてて、つくって、つながって 』

1年生のときにお花を育てた経験から「次はおいしい野菜をたくさん育てて味わってみたい！」と夏野菜づくりを始めた子供たち。「良い土ってどんな土なの？」と近所の畑を見に行ったり野菜が虫に食べられないよう虫よけスプレーをつくったりして一生懸命育てました。さらに、収穫間近のとうもろこしを鳥に食べられてしまったり、良い土を自分たちで作りたいと腐葉土づくりにもチャレンジしたりと、野菜づくりを出発点として土、虫、鳥、微生物など野菜を取り巻く様々な自然と触れ合いながら、自分の手と心で子供たちが自然の恵みや命のつながりを感じることができました。そして、

秋からは自分たちが作った腐葉土を畑にまき、秋野菜作りにチャレンジしました。畝の代わりにペットボトルで土の高さを出したり、保存の方法を工夫したりと夏野菜づくりの経験を生かして様々な工夫をしながら野菜を育てました。また、畑候補地から出てきたゴミやプランターづくりの際に出たゴミに注目したことをきっかけに廃材を使ったおもちゃづくりも始まりました。「みんなで経験してきたたくさんのわくわくや学びを誰かに伝えたい」そんな思いも生まれてきました。これからの活動の広がりが楽しみです。



【3年生】『 地域の良さを伝えよう 』

昨年度実施した地域探検を通して、これまで学校内にとどまっていた活動の視点が地域へと広がっていった子供たち。今年度は「地域の良さを伝えよう」というテーマで活動がスタートしました。地域のことを調べていく中で、歴史的な名所や、明新地区の素晴らしさをモチーフにした歌と出会いました。新田義貞の戦没地とされる新田神社や、歌の歌詞に登場する「あじさいの道」を巡る「明新地区探検」を企画し、自分たちの足で地域を歩き、その様子を目で見て確認することで、様々な問いが生まれ、その問いが現在のグループでの活動へとつながっています。「新田義貞はどのような人物だったのだろう」「明新地区にはどんな生き物がいるのかな。みんなに紹介できないかな」など、自らが抱いた問いの解決に向けて、より学びを深めていくために、地域の拠点である公民館と繋がり、優れた知識や技術をもった地域の方々とはつながり、仲間と試行錯誤しながら活動に取り組んでいます。



【4年生】『 自然とつながり、みんなを笑顔にしよう 』

これまでの社創の取り組みを継続しながらも、自分たちは何を大事にしながら進めていきたいのかを悩み、考え続けた子供たち。6月まで話し合いを重ね、「自然」を大切にすることを軸に、新しい可能性を探りながら、一人一人の「やってみよう」を形にしていきました。チームのリーダーを中心に、野菜づくりや災害などについて調べたり、様々な道具を使ってアート作品の制作に取り組んだりしていく。考えるだけではなく、実際に試しながらみんなで改善点を話し合っていく。このように、子供たちは活動を深めていきました。そして、自分たちだけが楽しむのではなく、「学校みんなを笑顔にしたい」という思いを大切に、12月には前期課程全学年を招いた発表交流会を行いました。学年を超えて笑顔で関わり合い、自分たちの伝えたいことや感じてほしい楽しさを体験してもらうことができました。今後は、3・4年生の2年間の学びを振り返り、5年生の社創につなげていきたいと考えています。



【5年生】『 わたしたちのSDGs 』

子供たちは、これまで「そうじ」や「運動づくり」を通して、地域や福祉施設の方々との関わりを大切にしながら活動を進めてきました。全員5年生になり、これから全2年間で「自分たちがやりたいことは何か」を話し合っていく中で、自分たちのやりたいことがSDGsの項目に当てはまるのでは

ないかと気づき、「私たちのSDGs」が始動しました。現在は、掃除、健康運動、公園活性化、植物、DIYなど、9つのチームに分かれて活動を行っています。いずれのグループも、自分たちのやりたいことがSDGsにどう結び付くのかを考えながら活動を展開し、他学年や地域、さらに広い社会と繋がりながら「私たちができるSDGs」を発信することを目指しています。



【6年生】 『 自然と関わって生きるとはどういうことだろうか 』

1年半前に「自然と共に生きるとはどういうことなのだろうか」という主題が生まれた6年生。農業や食、くらし、防災、ゴミ問題等様々なチームに分かれて、多様な角度から問いに迫ってきました。山に登ったり、近くの川で魚をつかまえて飼育してみたり、田んぼを作ってみたり、絵具や鉛筆を作ってみたりする等、自然と共に生きることについて考えながら、自然と共に生きる経験を子供一人一人が積み重ねてきました。11月には修学旅行を通じて、身近な場所から飛び出して、京都というまちに昔から息づく自然と共にくらす文化に触れることで学びを一層深めることができました。このような学びを通して、現在子供たちは主題に一旦立ち戻っています。自分たちにとってその大きな問いに対する自分なりの答えを考えているのです。「きれいな色の絵具を作るにはどうしたらよいか学ぶ過程で、錆が必要なことを学んだ。そんな経験から、自分が自然というと変わらずそこにあるものと思っていたが、変化があるものなのだ」と認識し、自然には時間が存在することが分かった。その時間による変化という視点をもって自然を見ることが大切。」等と、子供一人一人の声が聞こえてきています。また、新たに問いも生まれています。まだまだ探究は進んでいきます。



【7年生】 『 地域貢献をやってみようプロジェクト 』

子供たちは、学年目標「志航」に基づき、「これから106人で3年間をかけて、社会のために自分たちに何ができるか？」という問いをもちました。社会と関わるとはどういうことかということ考えるために校外学習に出かけました。そこでは、さまざまな仕事に携わる人々が、社会のために、人のために役立つことを考え、取り組んでいる姿を目の当たりにして、感銘を受けました。しかし、いざ社創のゴールをどうするのか、何を探究するのか話がまとまらず、さらに「自分たちがやりたいこと」と「社会のために自分たちができること」とのギャップが埋まらず、実行委員も学年のみんなも悩みながら何時間もかけてじっくりと考えていきました。

そして子供たちは「やっぱり人のため、社会のために、自分たちが何か役に立ちたい」という思いに立ち戻り、「地域貢献の価値とは何か？」というテーマで取り組んでいくことに決めました。まずは自分たちのできそうなことをやってみるところからスタート。いよいよ本格的に始動していきま



【8年生】 『 誰かの役に立つゲームプロジェクト 』

8年生は「誰かの役に立つゲーム」をテーマに、相手の年齢や価値観を想像しながら、ペルソナ（相手像）に合わせたゲーム制作に取り組みました。「自分たちが楽しいと思うもの」ではなく、「相手にとって役に立つもの」を目指し、班ごとに工夫を重ねて文化祭で発表しました。来場者には楽しんでいただけましたが、振り返りの中で「自分たちの“楽しい”を伝えただけかもしれない」との気づきが生まれました。そこで文化祭後に12月の社創DAYではインタビュー活動を行い、中学生と大人といった世代感、生活スタイルによって“楽しさ”の感じ方が大きく異なることを知りました。そして今は、より多様な楽しさを理解しようと探究しています。

現在はそれぞれの活動を進めながら、修学旅行の準備もしています。自分達の学びを、今度は国内外から多くの観光客が集まる東京で表現する予定です。



【9年生】 『 3年間の社創を振り返る 』

9年生のスタートは、学級演劇という大きな挑戦から始まりました。各学級で原作を選び、脚本を書き起こし、オーディションで配役を決め、大道具・小道具・照明といった演出もすべて自分たちの手で作り上げました。最後は、本番に向けて本当に一丸となって取り組み、学級の団結力は大きく高まりました。

文化祭での演劇を終えたあとは、これまでの社創活動の価値を自分達で掴んでいきたいという想いが高まり、歩みを省察することから取り組みを進めました。この2年半の中で、どんな経験からどんな課題を見つけ、どう乗り越えてきたのか。そして、その中でどんな力を身につけてきたのか。一つ一つの経験に、確かな学びが刻まれていました。時間が経って振り返ったことで、新たに気付くことも多くあったようです。

これからは、社創で培った力を将来どのように生かしていくのか、そして卒業までの残された時間でどのようにその力を発揮していくのかを、さらに深めていきます。



本校は、義務教育学校になって9年目を迎えます。校訓「自主協同」を柱として、教育目標「未来を創る自己の確立」と子供の「自立」「協働」「貢献」の実現を目指し、教職員一丸となって教育活動に取り組んでいます。さらに幼稚園との連携によって12年間を通して成長を支える仕組みを構築し、令和3年度からは幼稚園・義務教育学校協働開催の教育研究集会を実施しています。

幼稚園も含めた本校園の12年間の一貫教育は「探究」が軸となっています。身の回りの様々な事例から、疑問や課題を見つけ出し、その解決に向けて協働で調査・研究を繰り返していく学びです。この「探究」と「コミュニケーション」を大切にして研究を続けて参りました。

本校が長年にわたり取り組んでいる協働探究学習は、子供たちの個性や多様性を尊重し、自律的な学び手への成長を促しています。今後もその理念を核としながら、子供と教師が共に新たな価値を生み出していく魅力的な学校づくりを目指していく所存です。

保護者の皆様には、これからも、子供たちの学びを温かく見守っていただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。